

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム向陽台(3階・たけのこ)	評価実施年月日	平成20年10月31日
評価実施構成員氏名	片岡 明美 泉井 直子 佐藤 知恵 山口 綾子 木下 明日香 荒谷 往慎 佐久間 芳美		
記録者氏名	片岡 明美	記録年月日	平成20年10月31日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>事業所独自の理念を作っており、又わかりやすい言葉による説明を付け加えたものをユニット内に掲示している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念について疑問に思った事は、その都度話し合いを設けたり、会議等において検討しながら、日々理念に沿った実践に取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>広報誌にホームの理念を載せることやユニット内に掲示することで、家族や地域の方々に理解していただける様取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>体験学習を受け入れたり、行事の際に町内会の方々にお手伝いをしていただいたり、徐々にではあるが交流を持てる様になってきている。最近では山菜や野菜の差し入れ等をしていただくこともある。</p>	○	<p>今後も町内会の方や学生等が気軽に立ち寄って、ホームや認知症について少しでも理解していただける様働きかけていく必要がある。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内の掃除、お祭りの他サークル(ハッピー広場)への参加する等交流の機会は増えているが、入居者の体調面を考慮しながらの参加の為思う様な参加とはなっていない。</p>	○	<p>入居者の体調を優先し、ホームの行事に地元の方が参加していただける様呼びかけ等を行い交流の機会を増やす。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>広報誌に介護についてのQ&Aを載せたりしながら、徐々にではあるが事業所として役に立てる内容を発信している。</p>	○	<p>介護について困っている事等を気軽に相談できる窓口を設けられる様、職員の知識のレベルを高めるべく勉強会等を行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全職員が自己評価を実施する意義を理解しており、評価後には改善計画を作成し出来る事から実行している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度推進会議を開催し、ホームの活動状況報告等を行うほか委員からの意見や指摘事項等を受け、運営及びサービス向上に活かせる様取り組んでいる。</p>	○	<p>現在構成されているメンバーの他、オブザーバーとしてホーム職員を可能な限り参加させる機会を持ち、広く意見交換の出来る場としていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市職員がホームに来られたり、ホーム職員が市役所へ伺ったりして、情報交換を行う等の連携を持ちながらサービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>制度に関する知識が浅く、今後内部研修や会議等で制度の理解を高めていく必要がある。</p>	○	<p>具体的な日時を決め、内部研修を行いながら知識を深めていき、制度利用が必要な入居者にはそれを活用出来る様支援していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>内部研修で参考文献等の虐待事例を取り上げ知識を深めている。又毎日の業務の中で職員間で話し合いながら虐待が見過ごされる事の無い様に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時に十分な説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者がホームに対して意見や不満等ある場合にホーム職員に申し出出来る体制をとっており、可能な改善事項はすぐに行う様努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月一回近況報告の為に写真入の手紙やお小遣い帳のコピー等を家族に郵送している。又受診や特変事項が生じた時等は、その都度直接連絡し家族の意向等を確認させていただいている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱の設置や面会時での意見交換等で苦情・要望等が家族から寄せられた時にはすぐに対応出来る体制をとっている。又外部にも意見・苦情を申し出出来る機関があることを契約時に重要事項の説明と共に行っている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>種々会議・個別面談等を通して職員の意見を機会を設けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>時間外勤務や休暇の際お互いに協力し合える様、常に職員間で話し合いを持っている。</p>	○	<p>家族の協力やボランティアの受け入れ等を取り入れながら、より密度の濃いケアが出来る様な体制を築いていきたい。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員間でのコミュニケーションを増やし、悩み事等を抱え込むことが原因で離職に結びつくことのない様全員で努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>経験年数に応じて外部の研修に参加している。又、職員が望んでいる研修内容を把握する為アンケートをとる等して参加しやすい様工夫をしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域ケア会議等に参加し、同業者との交流する機会を設けている。</p>	○	今後管理者・計画作成だけではなく、職員の参加を促し、サービスの質を向上させていくことにつなげていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員間で悩みを話し合える雰囲気作りが出来ている。個別に悩みを話せる場を設けている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>定期的にホームへ足を運び、各リーダー及び現場での状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様に話を聞いたり助言をいただいている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人が言葉に出して自分の気持ちを話せる時は話を聞く機会を作っている。又本人が伝えられない場合は家族に協力していただき情報を得ている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談時、又その後も家族が不安に思っていることを少なく出来る様働き掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>事前の相談時や見学時にまず必要としている支援を話の中から把握し、本人や家族の不安を解消出来る様に対応している。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前面談や本人及び家族のホーム見学等により不安を解消させながら、入居後の安心した生活出来る様家族と相談しながら支援の工夫を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>本人を主体にしつつも共に生活している意識を持ちながら、喜怒哀楽を共に感じる事が出来る関係作りを心掛けている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族と共に困った事等を話し合いながら情報交換を行い、お互いの協力関係を築き本人を支えている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>普段面会に来られない家族の方にも、手紙や電話にて近況をお知らせしたり要望を聞いたりして、良好な関係を築ける様支援している。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の希望に応じて外出や会合に参加出来る様支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立せず、又利用者同士でトラブルが無い様、職員が間に入り注意深く見守り支援をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されても近況を知らせてくれたり、使用出来る消耗品等の寄贈があつたりしている。又、退去された方が体調回復により再度入居されるケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話や過去の生活歴の見直し、家族との情報交換から本人の意向の把握に努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報、本人の行動、言動等を基に、本人の過去の暮らしぶりについて職員間で検討している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	事前情報にとらわれず生活ぶり、言動、行動から出来ること、理解力等本人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の要望・本人の希望を取り入れながら職員間で意見を出し合い、又ケアマネジャーとの協議・意見交換した上で現状に即した介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月毎の見直しを基本に年間計画を立て、特変時・介護保険更新時に見直しを行うが、ケアマネージャー・職員が家族と情報交換しながら、その時の状態に即した介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・介護計画・連絡ノート等で情報を共有し、ケアの実践や見直し、介護計画の作成に役立たせている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	建物の特性を有効に利用して行事等を企画し、普段の生活に変化をつける支援に役立たせている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的に消防訓練を行ったり、民生委員の方が訪問を受ける等の協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や現状に合わせて、訪問理美容サービスや送迎のサービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の構成メンバーに地域包括支援センターの職員が入っており、会議の中で情報や助言をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望によりかかりつけ病院への受診同行、又は家族の同意を得てホーム協力病院にて適切な治療を行える様支援している。尚、協力病院からは2週間に1度の定期往診を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ病院の医師を通して情報提供書等を用い、専門医への受診対応を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師に相談し適切な助言をもらっている。	○	24時間体制で支援してもらえる看護師の確保を検討していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後病院へ都度連絡し本人の状況確認すると共に、退院前には家族・医師・職員での話し合いの場を設ける等、本人・家族の精神的負担を軽減出来る様に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族の意向を配慮しながら今後のホームでの生活維持の可否を家族・病院・ホームの三者間で話し合いながら方向性を共通理解する様にしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の身体状況について職員間で共通認識し、又協力病院及びかかりつけ医に相談・助言を受けながら、本人の状態に即したケアが行える様取り組んでいる。	○	重度化傾向が顕著になっている中、24時間体制での看護支援体制の構築を検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の不安を軽減出来る様、家族やケア関係者と十分話し合いを持ち情報伝達を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	申し送り時の声の大きさや居室への入室の際の声掛け等は、その時の状況を判断し対応している。又、記録を必ず他の方の目に触れない様に気を配っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人との会話や表情を感じる事等の対応で、本人の意思表示の場面作りを心掛けているが、希望に沿った支援が職員の都合で出来ない事もある。	○	本人の希望に沿った支援がひとつでも実現出来る様にしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	極カー一人一人のペースを大切に、希望に沿った生活を支援しているが、周りの状況により職員の動きに変更があり十分出来ない場合もある。	○	職員の行動パターンに余裕を持たせることにより、一人一人の希望に沿った支援を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎月一回理美容の日を決めており、希望により本人の望む場所へ行ける体制をとっている。又、月一回訪問理美容サービスを利用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	日常の会話の中から好き嫌いを判断し、誕生日には本人の好みの食べ物を提供したり一緒に作ったりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙される方の為に喫煙スペースを設けたり、おやつ工夫等を行っている。又、身体への影響を考え、医師の判断を仰ぎながらではあるが飲酒出来る様支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声掛けを行っている。オムツ使用の方には、定期的な交換を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来る限り希望に沿う様支援しているが、受診同行等職員の都合や状態の変化により十分希望に沿った支援とはなっていない。	○	一人一人の希望を極力取り入れることが出来る体制作りを行っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれ安心出来る場所での休息、睡眠をとってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の能力に合わせて出来そうな事への声掛け場面作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理出来る方は自分で管理してもらい、出来ない方は職員と一緒に買い物をした際に自分で支払い出来る様支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車椅子使用の方でも散歩や買い物等が出来る様支援している。又、バルコニーに出たりして少しでも外気に触れることが出来る様支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得てペットの墓参りや知人宅訪問等行ったり、個別に買い物や行きたい場所への同行支援を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	毎月の手紙の発送時入居者に自筆で書いていただいたり、希望により電話をかけたりにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人・友人等にはいつでも気軽に訪問出来る様に働き掛けており、又職員と入居者・家族と一緒に会話を楽しんだり出来る様心掛けています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。又、知らず知らずのうちに身体拘束にならない様内部研修で身体拘束についての勉強会を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関はオートロックになっているが、中からはいつでも鍵を開けられる状況にあり、鍵をかけないケアに努めている。</p>	○	<p>地域での見守り協力が得られる様町内会や近隣との交流作りを行っていききたい。</p>
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>居室内で過ごせれている方に対しても定期的な巡回を行い、常に状況把握に努めている。</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物やはさみ等を使用する際は職員が必ず傍らにつき、使用後は返却を励行してもらっている。又、洗剤類使用時も必ず付き添い異食等がない様見守りを行っている。</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>職員同士で常に声を掛け合いながら、一人一人の状況に合わせた体制をとっている。</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>内部研修等で訓練を行っているが、回数が少なく十分とはいえない。</p>	○	<p>会議等を利用して全員が冷静に対処出来る様定期的な訓練を行っていく。</p>
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の協力を得て防災訓練を実施しているが、地域の協力を得られる様な体制が出来ていない。</p>	○	<p>緊急時に地域の方の協力が得られる様な依頼や声掛けを行っていききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	入居者の状況を家族に伝え、入居者が良い環境の中で生活していける様情報交換を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の表情、行動等観察を行い、体調の変化に気づいた際は職員間で情報を共有し、かかりつけ医からの指示を受けながら適切な対処をとり、時には受診対応を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	毎日状態の観察を行っており、往診時や受診時に医師に対し本人の状態変化等を説明や相談をしながら適切な服薬の支援を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表による管理や食べ物や運動を考慮しながら予防及び対応をとっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自力で行えない入居者には、それぞれその人に合わせた方法で支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の状態や能力に合わせた水分確保や、食べ物についてもとろみやきざみ又は大きき等工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを基に予防や対応の取り決めを行い、又外部研修への参加により情報収集を行い、勉強会において全員が理解出来る様にしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾・まな板・包丁類は、毎食前後に消毒を行い衛生管理に努めている。又新鮮な食材を使用する様配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を植えたり、ベンチを設置したりして、親しみやすい環境作りに配慮している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下に飾り物をしたり居間に植物を置く等、季節感を感じとれる工夫を行っている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ・ベット等を設置して横になったり出来るスペースを設ける等、自由にくつろげる空間作りを心掛けている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前から本人が使用していた布団や飾り物・写真等を持ってきていただき、居心地良く安心して暮らせる様工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適時に換気を行い、又温度・湿度表を作成しチェックする等環境の変化に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々に居室内に手摺りをつけたり、ベットを布団に切り替えたり一人一人の能力に応じた工夫をしているがまだ十分とはいえない。	○	順次個人個人の能力に応じた工夫を検討していきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見やすくわかりやすい目印や案内等を工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの中庭・駐車場を利用してバーベキューを行ったり、ベランダでの日光浴を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

職員は、常に入居者主体のケアを心掛け実践出来る様取り組んでいる。